

降て嘉慶年間(千七百九十一年)公所を天津梁家咀子に設け、益其の弘布を圖る。在理とは儒佛道三教の理中に在るの謂にて、佛教の法を奉じ、道教の行を修め、儒教の禮を習ふを其目的とす。故に教旨は全く正心修身克己復禮を以て主とし、教俗は煙酒を戒めて茹葷を禁せず、彼等は謂ふ。

一たび煙酒を戒むれば、其の性亂れず、身體能く健なり。鮮魚肥肉は口に適する所にして、吾人只當さに心を修むべし。必ずしも口を修めず。と而して偶像を供へず、香を焚かず、單に咒歌偈語を用ゆ。此教、煙酒を禁じ、習俗に益あるに因り、到る處之に歸向する者多く、遂に今日の旺盛を來たし、滿洲の馬賊中、又信奉者尠なからずと云ふ。

蓋し新疆は多數人種の集合體にして、各人種は又其の信教を異にせり。人種の相異、宗教の不同は、人心の一致を缺き、争亂の基因を醸す。爲政の困難統率の容易ならざるは、觀易き道理なり。之を濟ふの道、他なし、教育を普及して、智識を啓發し、國家觀念を養成して、宗教的團結以外に人心の統一を謀らざるべからず。濫りに信教の自由を許して、其の國民教育を放任す、民心の歸向する所、豫め測るべからざ